

# 病害虫情報(第3号)6月予報

令和6年6月3日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463-58-0333  
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、カンキツ、ナシ、カキ、ブドウ(大粒種)、キウイフルーツ、チャ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、ネギ、スイカ、カボチャ、メロン】
  - II 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 10
- 農薬を使用する際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。  
○ 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和6年5月29日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 6月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	並	○	【育苗箱施薬:ヒメトビウンカ、イネミズゾウムシ】 アドマイヤーCR箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
イネミズゾウムシ	並	○	エバーゴルフオルテ箱粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱
ニカメイチュウ	やや少	○	【育苗箱施薬:ヒメトビウンカ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ】 グランドオンコル粒剤 [移植3日前～移植当日,1回] 50g/箱 プリンス粒剤 [は種時(覆土前)～移植当日,1回] 50g/箱 等
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)に関する防除情報を令和6年4月8日に発表している。</li> <li>◆ 縞葉枯病対策として、ヒメトビウンカの防除は必須である。</li> <li>◆ ツマグロヨコバイの発生が多い地域では、アドマイヤーCR、グランドオンコル、エバーゴルフオルテを使用する。</li> <li>◆ 紋枯病、白葉枯病の発生が懸念されるほ場では、エバーゴルフオルテを使用する。</li> </ul>
スクミリンゴガイ	—	△	スクミノン [60日,2回] 1～4kg/10a ☞ 湛水状態で均一に散布し、散布後7日間は落水やかかけ流しを行わない。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 取水口にネットや金網(目合い9mm以下)を設置する。</li> <li>◆ 移植後3週間、浅水管理を行う。水深を4cm以下(理想は1cm)にすることで実害がほとんどなくなる。</li> <li>◆ 詳細は以下のマニュアルを参照すること。 <a href="https://www.maff.go.jp/i/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/attach/pdf/sukumi-4.pdf">https://www.maff.go.jp/i/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/sukumi/attach/pdf/sukumi-4.pdf</a></li> </ul>

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【カンキツ】

生育: やや早(足柄地区事務所根府川分室: 普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒点病	並	○	(予) ジマンダイセンまたはペンコゼブ水和剤 みかんを除くかんきつ:[90日,4回] 黒点病:600~800倍 みかん:[30日,4回],黒点病:400~800倍、そうか病:400倍
そうか病	並	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 +クレフノン[-,-] 200倍 等 ◆ 黒点病は散布後に積算降水量が250mmを超えたら、再度散布する。 ◆ 黒点病は、伝染源である樹上枯枝を剪除し、園内に放置しない。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	並	○	マシン油乳剤(97%,98%) 等
カイガラムシ類	-	○	◆ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従う。
ミカンサビダニ チャノキイロ アザミウマ	-	○	ハチハチフロアブル[前日,2回] サビダニ類:2,000~3,000倍 アザミウマ類:1,000~2,000倍 コテツフロアブル[前日,2回]:2,000~6,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ナシ】

生育: やや早(生産技術部果樹花き研究課: 豊水)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
黒星病	並	○	(予) キノドーフロアブル[3日,9回] 1,000倍 (予・治) アンビルフロアブル[7日,3回] 1,000~2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル[14日,5回] 1,500倍 (予・治) ミギワ20フロアブル[前日,3回] 2,000~4,000倍 等
アブラムシ類	やや少	○	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤[前日,3回] 2,000倍 オリオン水和剤40[3日,2回] アブラムシ類,シンクイムシ類:1,000倍
シンクイムシ類 (発生時期)	(並)	○	コルト顆粒水和剤[前日,3回] アブラムシ類:4,000倍 等
カメムシ類	多	△	◆ カメムシ類、シンクイムシ類の発生消長は、ホームページの情報を参考にする。 ◆ シンクイムシ類の第2世代の幼虫を対象とする防除は、第1世代の成虫発生ピークから7~9日後が適期である。
ニセナシサビダニ	やや多	○	サンマイト水和剤[21日,1回] 1,000~1,500倍 等
ハダニ類	やや多	○	ダニサラバフロアブル[前日,2回] 1,000~2,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【カキ】

生育:早(生産技術部果樹花き研究課:富有)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
落葉病	並	○	(予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000倍 等
うどんこ病	やや多	○	
コナカイガラムシ類	—	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 等
カメムシ類	多	△	
カキノヘタムシガ (発生時期)	(やや早)	○	ダントツ水溶剤 [7日,3回] 2,000~4,000倍 ディアナWDG [前日,2回] 5,000~10,000倍 等 ◆ カキノヘタムシガ第1世代幼虫の防除適期は、富有の開花盛期 (開花率80%以上)から10日後である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【ブドウ(大粒種)】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
べと病 黒とう病 晩腐病	— 並 —	○	(予・治) ホライズンドライフロアブル [21日,3回] ベと病:2,500~5,000倍 黒とう病、晩腐病:2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) カナメフロアブル [前日,3回] 黒とう病:4,000倍 (予・治) オンリーワンフロアブル [前日,3回] 黒とう病、晩腐病: 2,000倍 等
チャノキイロ アザミウマ	—	○	アディオン水和剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍 アドマイヤー顆粒水和剤 [21日,2回] 5,000~10,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 袋内に侵入しないように、止め金をしっかり固定する。
カメムシ類	多	△	ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【キウイフルーツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
かいよう病	やや少	○	(予) コサイド3000 [収穫後～果実肥大期, -] 2,000倍 等 ❖ 症状が急速に進行する場合は、かいよう病新系統の感染が疑われる。
果実軟腐病	-	○	(予・治) トップジンM水和剤 [前日, 5回] 1,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

生育：並(北相地区事務所研究課:やぶきた)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
カンザワハダニ	並	○	【二番茶の萌芽～2葉開葉期】 コテツフロアブル [7日, 2回] 2,000倍 アグリメック [7日, 1回] 1,000倍 等
チャノミドリ ヒメヨコバイ	やや多	○	
チャノキイロ アザミウマ	やや少	○	
チャトゲ コナジラミ	-	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「摘採\*日前まで」を「\*日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
疫病	—	○	(予) Zボルドー [—, —] 400~600倍 (予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日, 3回] 1,000~1,500倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ホライズンドライフロアブル [前日, 3回] 1,500~2,500倍 ☞ ホライズンは混合剤。総使用回数に注意する。等 ◆ 疫病の病原菌は、気温20℃前後で活発に活動し始め、降雨が続くと激発しやすい。過繁茂、密植を避け、畑の排水を良くする。マルチなどにより、雨滴の跳ね上がりを防ぐ。												
うどんこ病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日, 3回] 2,000~4,000倍 (予・治) パルミノ [前日, 5回] うどんこ病: 2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, —] 300~600倍 (治) ベミデタッチ [前日, —] 500倍 等 ◆ うどんこ病は多発してからでは防除が困難になるため、発病が確認される前から予防的に薬剤散布を行い、発病確認後はすぐに治療剤の散布を行う。												
アブラムシ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日, 2回] アザミウマ類、コナジラミ類: 2,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 5,000倍 カスケード乳剤 [前日, 4回] ミカンキイロアザミウマ: 2,000倍、コナジラミ類: 4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, —] アブラムシ類、コナジラミ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, —] コナジラミ類: 500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。 <table border="1" style="margin: 10px auto;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(モザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(モザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類		○													
タバココナジラミ	並	○													
オンシツコナジラミ	やや少	○													
アザミウマ類	やや多	○													
オオタバコガ	やや多	○	アニキ乳剤 [前日, 3回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日, 2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [前日, 4回] 2,000~4,000倍 等												

[防除要否] ◎: 追加防除が必要 ○: 通常防除 △: 必要に応じて防除 ×: 防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\* 日前まで」を「\* 日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ❖防除のポイント
べと病	並	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [前日,3回] べと病:1,000~1,500倍、うどんこ病:1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。
うどんこ病	並	○	(予・治) ピシロックフロアブル [前日,3回] べと病:1,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] うどんこ病:2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回] うどんこ病:2,000~4,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] うどんこ病:2,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日,-] うどんこ病:300~600倍 等
アブラムシ類	やや少	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍
コナジラミ類 タバコ コナジラミ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:5,000倍
オンシツ コナジラミ	やや少	○	アフーム乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類:2,000倍
アザミウマ類 ミナミキイロ アザミウマ	並	○	サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	❖ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除が重要である。

発生するウイルス病	媒介する害虫
CMV等(モザイク病)	アブラムシ類
CCYV(退緑黄化病)	コナジラミ類
BPYV(キュウリ黄化病)	アザミウマ類
MYSV, WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類

❖ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処理する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
うどんこ病	—	○	(予) フルピカフロアブル [前日,4回] 2,000~3,000倍
灰色かび病	—	○	(予・治) ベルクートフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 発病した果実や葉は、早期に取り除きほ場の外で適切に処理する。
アブラムシ類	やや少	○	モバントフロアブル [前日,3回] 2,000倍
アザミウマ類			ファインセーブフロアブル [前日,3回] アザミウマ類:1,000~2,000倍
ミナミキイロ アザミウマ	並	○	グレーシア乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 ☞グレーシア乳剤は天敵類に影響があるので、使用に際しては注意する。
ミカンキイロ アザミウマ	並	○	チェス顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類:5,000倍 アフーム乳剤 [前日,2回] アザミウマ類:2,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類:300倍 等
オオタバコガ	やや多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 2,000倍 アニキ乳剤 [前日,3回] 2,000倍 トルネードエースDF [前日,2回] 2,000倍 等
ハダニ類	—	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,500倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] 300~600倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

## 【ネギ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
さび病	—	○	(予) ジマンダイセン水和剤 又は ペンコゼブ水和剤 [14日,3回] 600倍
黒斑病	—	○	(予・治) アミスター20フロアブル [3日,4回] 2,000倍 等 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。
ネギアザミウマ	並	○	【生育期:散布】 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [3日,2回] 2000倍 グレーシア乳剤 [7日,2回] 2,000~3,000倍 アニキ乳剤 [3日,3回] 1,000倍 ボタニガードES [発生初期,-] 1,000倍 等 ☞十分な効果の発揮には、ある程度の湿度を必要とするため、夕方あるいは曇天時や梅雨時期に散布する。 ◆ ネギは薬液をはじきやすいため、水溶剤や水和剤には展着剤を加用し、薬液が十分付着するように散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【スイカ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ジマンダイセン又は ペンコゼブ水和剤 [7日,7回] 400～600倍
炭疽病	並	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] つる枯病:700～1,000倍、炭疽病:700倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] つる枯病:1,000倍 等
うどんこ病	並	○	(予・治) ベルクート水和剤 [前日,4回] 1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,5回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや少	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍 トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 アフーム乳剤 [前日,3回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [7日,4回] ミナキイロアザミウマ:2,000～4,000倍 等
ハダニ類	やや多	○	コロマイト乳剤 [7日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

### 【カボチャ】

病虫害名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
疫病	—	○	(予) Zボルドー粉剤DL [—, —] 4kg/10a (予・治) フェスティバルC水和剤 [3日,3回] 1,000倍 (予・治) ランマンフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等 ◆ 薬剤散布では、地表面に接する茎や果実に薬剤が付着するように散布する。
うどんこ病	並	○	(予) イオウフロアブル [発病前～発病初期, —] 500倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [7日,4回] 1,000～2,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,3回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや少	○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日,2回] 2,000～4,000倍 ウララDF [7日,2回] 2,000～4,000倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。



# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

## ▼三浦半島地区野菜▼

### 【メロン】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
つる枯病	並	○	(予) ダコニール1000 [3日,5回] 1,000倍 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日,4回] 1,000倍 ◆ 株元の古葉を摘除して通風を図る。 等
べと病	—	○	(予・治) プロポーズ顆粒水和剤 [3日,5回] 1,000倍 ☞ プロポーズは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) リドミルゴールドMZ [7日,3回] 1,000倍 ☞ リドミルゴールドMZは混合剤。総使用回数に注意する。 等
うどんこ病	並	○	(予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) ベルクート水和剤 [前日,5回] 1,000倍 (予・治) モレスタン水和剤 [3日,10回] 2,000～4,000倍 ☞ 高温時に薬害が発生しやすいので注意する。 等
アブラムシ類	やや少	○	モスピラン顆粒水溶剤 [3日,3回] 8,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000～4,000倍 トランスフォームフロアブル [前日,3回] 2,000倍 等
アザミウマ類	多	○	アフーム乳剤 [前日,2回] 1,000～2,000倍 グレーシア乳剤 [前日,2回] 2,000倍 カスケード乳剤 [7日,3回] ミナキイロアザミウマ: 2,000～4,000倍 等
ハダニ類	多	○	コロマイト乳剤 [前日,2回] 1,000倍 カネマイトフロアブル [前日,1回] 1,000～1,500倍 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

★薬剤耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい薬剤については、巻末の別表を参照してください。

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

## Ⅱ 6月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 6月の気象予報(気象庁 5月21日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並み	高い(多い)
気 温	20%	30%	50%
降 水 量	30%	40%	30%
日照時間*	40%	30%	30%

\*5月23日発表1か月予報による。

### (2) 6月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
水稲	ヒメビウンカ (縞葉枯病)	少	並	1) ヒメビウンカ越冬世代の密度は平年よりやや低い。(－) 2) 予察灯への誘殺は見られず、発生が平年並。(±) 3) ヒメビウンカ越冬世代におけるイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	イネミズゾウムシ	少	並	1) 予察灯への誘殺数は、平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ニカメイチュウ	少	やや少	1) 前年9月の本田調査では被害が見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 予察灯への誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップへの誘殺は見られず、平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋): 多発要因 (－): 少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) ..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	黒点病	少	並	1) 県予察ほ(根府川)では、3月の樹上枯枝量が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	そうか病	少	並	1) 昨年10月の巡回調査では、葉での発病が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量、日照時間は平年並の予報。(±)
	かいよう病 (中晩柑類)	少	並	1) 4月の巡回調査では、越冬病斑の発病が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、春葉発病が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミカンハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(根府川)では、慣行防除区、無防除区ともに発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
ナシ	黒星病	少	並	1) 巡回調査では、徒長枝での発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 巡回調査では、短果枝での発病は見られず、発生は平年より少ない。(－) 3) 県予察ほ(上吉沢)では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	アブラムシ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年より少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	シンクイムシ類 (発生時期)	－	(並)	1) 第1世代成虫の発生ピークは、有効積算温度等によるシミュレーションから、平年並と予測される。
	ニセナシサビダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、被害は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ハダニ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」..... 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (＋):多発要因 (－):少発要因  
「発生時期」..... 早、やや早、並、やや遅、遅

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

..... 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カキ	落葉病	—	並	1) 昨年10月の巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	—	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(上吉沢)では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カキノヘタムシガ (発生時期)	—	(やや早)	1) 予察灯調査では、越冬世代成虫の発生時期は平年並。(±) 2) 生育調査では、カキの開花が平年より早い。
ブドウ	黒とう病	—	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
キウイ フルーツ	かいよう病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 2) 県予察ほ(根府川)では、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	多	1) 越冬調査では、落葉内のチャバネアオカメムシ成虫の越冬数は平年よりやや多く、カンキツ樹冠内のツヤアオカメムシ成虫の越冬数は平年より多い。(+) 2) ミカン花のビーティング調査では、カメムシ類の寄生は平年より多い。(+) 3) フェロモントラップへの誘殺数は、伊勢原、南足柄、県予察ほ(根府川)でいずれも平年より多い(+) 4) 予察灯への誘殺数は、県予察ほ(上吉沢、根府川)、伊勢原、山北でいずれも平年より多い(+) 5) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
チャ	もち病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)
	チャノミドリヒメヨコバイ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年よりやや多い。(+) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(+)

※「発生量」..... 程度: 甚>多>中>少>無 平年比: 多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」..... (+): 多発要因 (—): 少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

…… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
チャ	チャノキイロアザミウマ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、被害は見られず、発生が平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	チャノホソガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 予察灯(山北)への誘殺数は、平年よりやや少ない。(－) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北では平年並(±)、県予察ほ(寸沢嵐)では平年よりやや少ない(－)。 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ツماغロアオカスミカメ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	ハマキムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 県予察ほ(寸沢嵐)では、寄生は見られず、発生が平年並。(±) 3) フェロモントラップの誘殺数は、山北、県予察ほ(寸沢嵐)ともに平年よりやや少ない。(－) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地トマト	アザミウマ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(＋) 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地 キュウリ	べと病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	少 少	並 並	1) 巡回調査では、寄生は見られず、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(＋)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月) ・・・ 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
ナス	ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	－	並	1) 露地キュウリの巡回調査では、寄生は見られず、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや少なく(－)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 2) 青色粘着板の捕虫数は、ミナミキイロアザミウマは平年よりやや多く(+)、ミカンキイロアザミウマは平年並(±)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地トマト 露地キュウリ ナス	アブラムシ類	－	やや少	1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	タバココナジラミ	－	並	1) 巡回調査では、トマトでは寄生は見られず、発生が平年よりやや少なく(－)、キュウリでは発生が平年並(±)。 2) 施設の巡回調査では、トマトでは発生が平年よりやや多く(+)、キュウリでは寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない(－)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	－	やや少	1) 巡回調査では、トマト、キュウリともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 施設の巡回調査では、トマト、キュウリともに寄生は見られず、発生が平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
ネギ	ネギアザミウマ	中	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 青色粘着板の捕虫数は、平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)
露地野菜 全般	オオタバコガ	－	やや多	1) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜では平年より多く(+)、伊勢原、三浦では平年よりやや少ない(－)。 2) 県予察ほのフェロモントラップへの誘殺数は、上吉沢、三浦では平年よりやや多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報

(令和6年・第3号・6月)

神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

病害虫名	作物名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
つる枯病	(スイカ) (メロン)	少 少	並 並	1) 巡回調査ではスイカ、メロンとも発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
炭疽病	(スイカ)	少	並	1) 巡回調査では発病は見られず、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
うどんこ病	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 少 少	並 並 並	1) 巡回調査では、スイカでは発病は見られず、発生が平年並(±)、メロンとカボチャでは発病は見られず、発生が平年よりやや少ない(-)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
アブラムシ類	(スイカ) (カボチャ) (メロン)	少 少 少	やや少 やや少 やや少	1) 巡回調査では、スイカ、カボチャ、メロンともに発生が平年より少ない。(-) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より少ない。(-) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
アザミウマ類	(スイカ) (メロン)	少 中	並 多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年並(±)、メロンでは発生が平年より多い。(+)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)
ハダニ類	(スイカ) (メロン)	中 中	やや多 多	1) 巡回調査では、スイカでは発生が平年よりやや多く(+)、メロンでは発生が平年より多い(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並の予報。(±)

※「発生量」……………程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」……………(+):多発要因 (-):少発要因

(別表)

耐性菌の発生を防ぐため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。

## ★カンキツ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤との混合剤(ナリア)の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★ナシ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - QoI剤とその他の殺菌剤の混用は1年2回
    - 単剤あるいはSDHI剤他との混用の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤他との混用の場合:1年2回

## ★ブドウ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(フリント、アミスター10、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1年1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤(ホライズン)の場合:1年2回
  - ▶ SDHI剤(フルーツセイバー)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1年1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用や混合剤の場合:1年2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(レーバスフロアブル)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルM水和剤等)の場合:1作2回

## ★チャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1年間での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー、ファンタジスタ)
    - 単剤の場合:1年1回
    - その他の殺菌剤との混用の場合:1年2回

## ★トマト★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス、ネクスター、パレード20)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(トリフミン)の場合:1作2回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(テーク、パンチョ)の場合:1作3回

## ★キュウリ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生リスクが高いため、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ファンタジスタ)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ファンベル、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生リスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(フェスティバル水和剤等)の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ、バトファイター)の場合:1作2回



## ★ナス★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(アミスター20、ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット、カンタス)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回

## ★スイカ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤(シグナム)の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(マネージ)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★カボチャ★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ)の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(フェスティバルC、プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回

## ★メロン★

薬剤耐性菌の発生を防ぐために(以下の農薬は、病害虫情報に掲載(予定)されているものです。)

- QoI剤とSDHI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクが高いので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - ▶ QoI剤(ストロビー)
    - 単剤あるいはSDHI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
    - SDHI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(アミスターオブティ、ホライズン)の場合:1作2回
  - ▶ SDHI剤(アフェット)
    - 単剤あるいはQoI剤との混用、混合剤の場合:1作1回
    - QoI剤以外の殺菌剤との混用の場合:1作2回
- CAA系薬剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤の場合:1作1回
  - CAA系薬剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(プロポーズ)の場合:1作2回
- DMI剤は、薬剤耐性菌発生のリスクがあるので、1作での使用回数を制限することが望ましい農薬です。
  - 単剤(ルビゲン)の場合:1作1回
  - DMI剤以外の殺菌剤との混用もしくは混合剤(パンチョ)の場合:1作2回
  - 単剤と混用もしくは混合剤を組み合わせる場合:1作に単剤1回+混用または混合剤1回